

被災者支援 全力を

5月臨時会 商工観光常任委員会で要求



2011年6月12日
- 3号
発行
日本共産党県議会議員
渡辺 ゆり子
<連絡先>
県議会共産党執務室
電話 023-630-3241(受付)
自宅：山形市青田2-10-5
電話 023-642-2365

旅館・ホテルへの二次避難対応を充分に



県議会5月臨時会の商工観光常任委員会が開かれた5月24日、震災被災者の二次避難に対する支援について取り上げました。

私が、県内の旅館・ホテルへの二次避難者の現状と今後の見通しについて質問したのに対し、小野真哉・観光交流課長は、「16日現在、県内の15市町村の旅館・ホテルに831人が二次避難しており、多くは福島県からだが、今後宮城県から避難の意向がある」と答えました。

私は、さらに、「まとまった一次避難所から旅館・ホテルへ分散し、交流がなくストレスや不安を感じている被災者がいる。支援体制はどうなっているのか」と質しました。

小野課長は、「個室となり必要な情報が入手しづらくなっており、職員らが各避難所を回るなどして情報提供を行っている。観光交流課も含め支援チームをつくり、必要な支援や相談にあたっては」と述べました。

私は、「支援事業を計画する県内市町村の動向はどうか。宿泊ツアーの対象者は被災者だが、個人宅に避難している人もいる。情報の周知徹底が必要ではないか」と指摘しました。

小野課長は、「25市町村に前向きに検討してもらっている。職員が出かけて積極的に情報提供していきたい」と答えました。

また、この日の委員会で、震災後にあがっている県内中小企業の声や要望を代弁しました。

私は、「国の一次補正による保証枠拡大の金融支援について、積極的活用のため県信用保証協会や金融機関への働きかけを強めること」など発言しました。

県議会 震災対策特別委員会 小委員会が方向性

震災対策特別委員会は5月30日、自民党と県政クラブの13人からなる小委員会を開き、今後の方向性を決めました。

被災地視察を行い、市長会・町村会の意見を聞く場なども設けて、担当部局への質疑を行います。

被災地・被災者支援、県内への影響への対策、今後の防災のあり方など、3項目となったっており、7月5日までに提言内容をまとめることとしました。

私も含め42人参加する特別委員会での質疑も予定されていますが、詳細は未定です。

6月定例会の日程(見込み)
開会 22日(水)
最終日 7月8日(金)

竜山川の護岸整備

地域要望が実現

この間、総合支庁などにはたらきかけ、青田橋付近、国道13号線近くまで整備が進みました。



状況(左)と視察(中央)を聞き、現況を県議(右)に説明した。5月11日

ゆり子の視点

「10000年後の安全」を見て

先日、ドキュメンタリー映画「10000年後の安全」を見ました。

放射性廃棄物の最終処分場にするため、フィンランドの地下500mにトンネルを掘る工事が進められています。廃棄物を埋蔵して10万年先まで封鎖するという、とてつもない計画です。

現状では、放射性廃棄物を無害化する方法はなく、地下に埋めても安全が保障されているわけではありません。今回のような地震が起こったらどうなるでしょう。

関係者へのインタビューから、原子力エネルギーの危険性がじわじわと迫ってきます。「トイレなきマンション」をつくり、廃棄物を出し続けてきたつけが、目の前につきつけられています。

エネルギー政策の転換について、多くの方が考えさせられる内容だったと思います。

好評 原発考えるパンフ

日本共産党発行の『科学の目で原発災害を考える』(不破哲三)が評判をよんでいます。日本の原発政策がどう進められてきたか、現状や危険性も含め、わかりやすい内容です。ぜひ、「一読を」



三・党社会科学研究所 所長、税込150円